

# みんなの広場



井村 <sup>あんり</sup> 安里ちゃん

- H 15 年 1 月 15 日 生 ま れ
- 英貴さん・恭子さんの長女はじめまして、安里です。バナナとヨーグルトが好物なの。積み木で遊んだりブーブーカーや三輪車に乗ったりするんだよ。



村田 <sup>ふみや</sup> 典彌くん

- H 15 年 1 月 25 日 生 ま れ
- 安史さん・幸江さんの次男。こんにちは、典彌です！チョコチップパンと牛乳がすきなんだ。お兄ちゃんとお姉ちゃんと歌に合わせて踊ったりするんだよ。

ママの  
おしゃべり  
タイム

## ◎健康の秘訣

早起きを心がけています。毎朝、家の周りをほうきとちりとりで掃除しています。近所の小学生の通学路なので、元気良く「おはようございます」と挨拶をしてくれるのがなんとも気持ちがいいですね。張り合いがあります。

## ◎楽しみ・生きがい

かわいい玄孫が3人できましたので、かわいくなってやりたいですね。



# いきいき

まさみ  
大川正三さん

(雲金)  
大正3年4月1日生まれ (90歳)

## 歌壇

創作修善寺歌会

見の限り原野展るサロベツに秋草の花風にそよげる

(小) 山西島 慶子

連休を連れだつ親子の賑はしく花と人とであふれんばかり

(熊) 坂石橋美沙江

鎌を手に鉈のこぎりを腰にさげ登りし榎場今止夢の中

(加) 殿室住 みや

木犀の香りただよふ山里の秋はやさしき光の中に

(本立野) 仁科 照

燃ゆるごと咲く曼珠沙華の花群れに秋のまなかへ入りゆく思ひ

(本立野) 村崎いと子

誰も弾かぬピアノ一台ぼつねんと日差しに目立つ埃を払ふ

(牧之郷) 森島八重子

京焼の御飯茶碗を秋焼に替へて持つ手に重さを感じず

(熊) 坂岡 三鶴子

汗ぬぐひ憩ふ向かつ山万次郎万三郎の雄姿に声あぐ

(熊) 坂石井 保美

伏せ置きし夫婦茶碗を片附けぬ夫逝きしより三度目の秋

(牧之郷) 島田富貴子



# 自然にふれて心は若く

## 天城せせらぎ俳句会

天城山の麓は狩野川の清流を遡るにつれ、豊かな自然にふれることのできる恵まれた地域です。私

たち「天城せせらぎ俳句会」は、旧天城湯ヶ島町文化協会主催で、平成9年4月から初心者対象の俳句教室を1年間行いまし

たが、俳句教室に参加したメンバーが、「せっかく俳句を覚えはじめたのにこのまま終わらせるのは惜しいのでぜひ続けたい」という思いから誕生しました。

古見東流先生の熱心な指導で、今までは月1回の句会を開いておりました。しかし、平成15年12月に東流先生が急な病に倒れ他界されました。東流先生は、「雪折れの杉を抱えて眠る山」の他に6句をせせらぎ俳句会に残されましたが、あまりにも急な永久な別れとな

りました。突然の事態にみな悲しみ動揺し途方にくれました。その後、メンバーの一人が熱心に勉強をしてリーダーシップを取り、会を引っ張ってくれる事になり、みんなホッと胸を撫でおろしました。メンバーは10人という小さな会ですが、毎月第一日曜日の午後13時から天城農村環境改善センターの会議室に集まり、みんなで学んでいます。17文字の中に、自分の感じた季節を詠むことの難しさ、まして人の心をとらえる句はなかなかできません。でもみんな楽しくメンバーの句を聴いて、自分もいつかこんな句を作ってみたいと夢を持って頑張っています。

最後に、伊豆日日新聞に私たちグループの俳句を載せていただいています。気づいたことがあります。たら、ぜひご指導下さいますようお願いいたします。

天城せせらぎ俳句会代表 安藤治

### 俳壇

樫の実俳句会（天城）

曼珠沙華老ひゆくことに妥協せず（下船原）坪内 絹枝  
菊枕あまりに長生きしてもかな（月ヶ瀬）安部 功子  
菊枕疵傷みを分かちえず（月ヶ瀬）内田 みち

人垣の向こうは三味の音風の盆（本柿木）飯塚 幸子  
寝つかれずしばらく虫の中に入る（吉）奈五十嵐輝子  
菊枕あしたゆうべに古色かな（門野原）石渡 まき

秋の風地蔵の頭巾傾きて（市）山 大川 幸子  
草の花湯桶に活けし峡の宿爽やかに笑ひとばして物忘れ（門野原）竹内さち子  
秋暑しチエチエの子等の痛まし（大平柿木）高橋きい子

百歳の終の旅路は菊枕（青羽根）大村 照代



月に一度の句会の様子

にも急な永久な別れとな